

青少年赤十字だより

No.10

松野西小学校

朝晩の寒さが厳しくなってきました。校舎周辺の木々も落葉が進み、毎朝V・S落ち葉清掃に進んで取り組んでいる松西っ子たちです。朝から、友達と協力しながら、きれいに掃き掃除をしてくれています。

10月18日(土)に行われた運動会には、森の国国際学院の研修生たちが応援に来てくれました。運動会前日に松野に到着した方々だったそうです。日本の運動会の様子を見学し、一緒に「松野音頭」を踊って交流することができました。大きな輪になってみんなで踊ることができ、とても良い機会となりました。その後、研修生からお手紙が届きました。掲示しています。



インドネシアの方の手紙より

子供たちがとても元気に運動会に参加していました。一生懸命競争し、いつもスポーツマンシップを大切にしている姿を見て、うれしかったです。

なかよしチャレンジ集会で防災学習を行いました。今回は、「津波」の学習です。津波について学習した後、校長先生の東日本大震災後の3年間にわたるボランティア体験から震災被害の現実やボランティア活動の内容について教えていただきました。子供たちの感想を紹介します。

津波のときは、高い所に逃げるのが分かった。

津波の後、ごみがたくさんあってごみをのけないと家が建てられないと知った。

(1年)

助けたいという強い気持ちやたくさんの人が協力することが大切だと知った。自分たちも朝のボランティア清掃をこれからも頑張りたいと思った。

(2年)

またいつ地震が起こるか分からない状況で、ボランティアに出向く勇氣はすごいと思う。避難所で子供たちと遊ぶこともボランティアだと知った。

(3年)

津波の力のすごさを知った。がれきの山を見て、とても驚いた。自分も大人になった時、ボランティアに参加できる人になりたいと思った。

(4年)

車が4階の建物まで乗り上げていた。津波がいかに高かったかがよく分かった。ボランティアの人の気持ちや、心構えなどについても分かった。

(5年)

被災者の方のために、全国から多くのボランティアの方が集まったことを知った。長年ボランティアが必要だった事実から、被害の大きさが理解できた。

(6年)



撮影：校長先生 (防災学習時のスライドより)